

ニイハマ写真部

まち歩き撮影会

多喜浜周辺

2019年9月28日(土)
10:00~12:30

多喜浜塩田について

元禄13年に築造計画がはじまり、昭和34年までの250年以上の間、新居浜の一大産業として栄え、継承されてきた日本有数の大塩田。別子銅山とともに新居浜市が近代工業都市として発展を遂げた源。昭和39年以降、塩田跡地は埋め立てられ、新居浜市のものづくり産業を支える東部臨海工業団地として発展し続けている。



1 岡城館歴史公園(藤田本家跡)

塩田地主 藤田本家跡。12代当主は武芸にも秀でており、西条藩多喜浜塩田惣肝煎役を務めるかわら、邸内に剣道場(岡城館)を構え剣道を教えていた。平成16年の集中豪雨で大きな被害を受けたが、岡城館は多くの市民の支援で復旧。屋敷は修復が難しく、市に寄贈し公園として整備された。



2 岡本家

塩田築造地主 岡本家屋敷。波返しのような石垣が特徴的。かつては海岸線がここまで迫っていた。大正10年に国鉄が開通し、広い敷地内に線路が通った。7代目当主で洋画家の岡本忠道が描いた絵画が多喜浜公民館(資料室)に展示されている。



3 白浜金刀毘羅宮

多喜浜開拓の完成と、塩を積んでいく船や塩田で働く人たちの安全を願って建立したとされる。白浜・東浜・新田・黒島の4箇所にある。白浜金刀毘羅宮の両脇にある灯籠はいずれも江戸時代のもの。



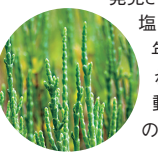
4 ソルティ多喜浜

塩づくり体験を通して子供たちに郷土を愛する心を育みたいという願いから、平成17年に小学校施設内に設置された流下式ミニ塩田。毎年市内全ての小学校6年生が体験学習を行っている。



6 アツケシソウ(岡田家)

海水が入り出す湿地に生える一年草。塩田周辺など限られた場所で見ることのできない珍しい植物。日本で発見された中で、最も南に位置する。多喜浜塩田との関わりが深いことから、昭和59年に新居浜市の天然記念物に指定された。現在も岡田氏を中心に保存活動が続けられている。10月下旬からの紅葉も必見。



7 ポケットパーク(阿島)

昭和63年にスタートした「みどりのまちづくり事業」の中の取り組みとして、市内12箇所に整備された、街角アートスポット。※阿島は平成2年に整備。作品名は『SWELL(スウェル)』(御影石)。作者は相原誠則。代表作に愛媛県武道館の外壁石積などがある。道路を挟んで南側から新居大島を背景に撮影するのがおすすめ。



8 ここから見える新居大島

新居大島がよく見える海岸線。天気がいい日は香川県の庄内半島や本州の方まで見えるかも?



9 湊神社/鹽電神社(浜の宮)

塩田の守護神として、尾道の吉和浜湊大明神から勧請された湊神社と、境内社として仙台より勧請された鹽電神社。廃田後の再開発により、昭和49年東浜から現在の場所に遷宮。神社周囲の玉垣・鳥居・犬犬などは東浜にあった当時のもの。



10 (株)大石工作所

創業80年を迎えた歴史あるプラントメンテナンス会社。現在開催中の「えひめさんさん物語」参加企業。アーティストinファクトリーで制作された作品『Oishi Park』を常設展示している。高い技術力を持つ職人達と、彫刻家 柳原絵夢によって生み出された、遊び心のある作品を通してものづくり産業の魅力を発信している。



Oishi Parkにいるエイリアンたちを見つけよう!

Hello! NEW
新居浜